

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第496号 平成25年2月19日

## 急須が使えない？

「最近の高校生は日本茶の入れ方を知らない」という新聞記事（1月27日付朝日新聞）を見て、「今時の高校生」はと一括りにしてしまうのも如何とは思いつながら、一方では「本当なの？」と驚いています。

この記事は、1月26日に佐賀県で開催された日教組の教研集会で福岡県立直方高校家庭科の女性教諭の発表を記事にしたものです。

記事の内容を紹介すると、昨年9月、家庭科調理実習の際、1年の男子生徒が茶葉と水を入れた急須をそのまま火にかけようとし、慌てて止めたという事があったそうです。前年度にも同様の生徒がいたことから、この教諭は1年生240人を対象に、「冬場、家庭ではどうやってお茶を飲むか」というアンケートを行ったところ、急須でお茶をいれる生徒は下表の通り全体の約2割だったとしています。

急須でお茶を入れる	21%
麦茶などを沸かして冷やす	50%
ペットボトルのお茶を購入	13%
水を飲む	15%
その他	1%

「麦茶などを沸かして冷やす」というのは、冬でも熱いお茶は飲まないという事なのではないでしょうか。しかも、そういう家庭が50%もあるというのは、ちょっと理解し難い事です。

調査を行った教諭は、ペットボトルのお茶を購入する家庭が10%を超えた事に着目し、「家庭でお茶を入れる機会が減っているようだ。生徒が急須を使えないのもうなずける。」としています。

また、急須でお茶を入れている家庭でも、実際は親がお茶を入れているとみられ、日常的に急須を使う生徒は5人に1人もいないと考えられるとして、高校生の殆どは急須を使えないと考えているようです。

ただ私には、子どもというものは、直接自分でやらなくても親のやる事をちゃんと見ていますから、急須の使い方を全く知らないという事はないのではないかと思います。

っています。従って、このアンケートの結果から、「最近の高校生は急須を使えない」というのはいささか短絡的かなという感じがします。勿論、お茶を美味しく入れられるかどうかは別ですが。

我が家でもペットボトルのお茶を購入する機会が増えていますが、それでも急須を使わない日はありません。しかし、私達よりもずっと若い世代の家庭だと、お茶をペットボトルで飲むのは当たり前で、わざわざ急須でお茶を入れるという習慣はなくなっているのかも知れません。

親に急須を使うという生活習慣がなければ、子どもが急須の使い方を知らないというのも致し方ないようです。

子ども達の実体験の不足が叫ばれて久しいのですが、野外活動などの自然体験だけではなくて、例えば、普段の生活の中でも、

- ・ナイフを使って鉛筆を削るなど、道具を使う
- ・料理を作ったり、食事の後片付けをしたりする
- ・洗濯をしたり、部屋の掃除をしたりする

といった体験が不足していると感じている人が多いようです（内閣府の「青少年と家庭に関する世論調査」から）。

以前、最近の子ども達は雑巾を絞れないという話を聞いて驚いた事があります。家庭の中で掃除や洗濯をする機会がなければ、雑巾を絞るという機会もないでしょうから、雑巾を旨く絞るにはどうしたら良いのか考えもつかないという事でしょう。もっとも、洗濯の場合は脱水機がありますから、洗濯物を絞る必要もないのですが。

いくら勉強して知識としては知っていても、実際に自分の体を使って体験した事でないとももの役には立たないというのが現実です。

「子どもに包丁を持たせると、危なっかしくて見てられない」と子どもに包丁を触らせない親がいますが、体験しなければ本当の危なさも分かりませんし、使い方も上達しません。

今回の急須の一件は、子ども達に出来るだけ沢山の経験をさせる事が重要である事を、改めて示しているといえるでしょう。（塾頭：吉田 洋一）